

シンポジウム

「再生可能エネルギー100%の社会の実現に向けて
—日本のマルチステークホルダーの取り組み—」

中根副大臣 開会挨拶

- 本日は、シンポジウム「再生可能エネルギー100%の社会の実現に向けて—日本のマルチステークホルダーの取り組み—」にご出席いただきありがとうございます。今年は米西海岸での山火事や豪州での干ばつをはじめとする異常気象が世界各地で発生しており、日本も7月に発生した豪雨や、7月中旬以降の記録的な高温とそれに伴う熱中症の被害に見舞われています。まずは、こうした災害においてお亡くなりになられた方のご冥福をお祈りするとともに、被害に遭われた方にお見舞いを申し上げます。
- こうした異常気象の発生は国際社会における気候変動対策への関心を喚起しています。日本で発生した豪雨と記録的な高温について、先日、気象庁がその分析を発表いたしました。その中においては、地球温暖化に伴う気温上昇が背景の一つとして明示されており、国内における気候変動問題への関心も高まっています。一方、既に産業革命以後の気温上昇は約0.9度を記録しており、こと今年の夏に目を向けますと、東日本の月平均気温が平年差で2.8度高いという状況です。パリ協定に掲げられている

いわゆる「2℃目標」実現に向けて、国際社会は待ったなしの状況にあります。

- 気候変動問題は国境を越えるグローバルな問題であることから、国際社会全体で取り組むべき課題です。また、国家の取組のみならず、民間企業、地方自治体、N G Oや市民社会をはじめとする様々な非国家主体の役割が極めて重要です。こうした非国家主体の重要な役割についてはパリ協定やC O P 決定において言及されています。
- 本シンポジウムは、そうした気候変動対策待ったなしの状況において、まさに時宜を捉えたテーマで、かつ、非国家主体を含むあらゆる主体が参加する「タラノア対話」として開催されます。
- タラノアとは、C O P 2 3の議長国であるフィジーの言葉で、「包摂的、参加型、透明な対話プロセス」を意味します。2017年のC O P 2 3において実施プロセスが決定されたこの対話は、「2度目標」の達成のために、世界全体の温室効果ガス排出削減の取組状況を確認し、目標達成に向けた取組意欲の向上を目指すものです。この精神の下、タラノア対話は、政府だけでなく、企業や自治体、研究機関、NGOなど、あらゆる主体が参加して実施されます。
- 本日のタラノア対話において共有される国内外の優れた取組は、各主体が直面している課題を解決するための答えやヒントになりうるものです。こうし

た有益な情報を日本から世界に発信するとともに、日本国内に還元し、更なる温室効果ガスの排出削減につなげたいと考えています。

- 国際社会において気候変動対策に関する機運が高まる中、再生可能エネルギーの導入拡大も進展しています。気候変動対策を進める上で、再生可能エネルギーが果たす役割は言うまでもなく極めて重要であり、本日のテーマである「再生可能エネルギー１００％の社会の実現」もまた、エネルギー転換の過渡期においてまさに時宜を得た主題であると言えます。
- 日本政府は、世界の脱炭素化を牽引するとの考えの下、様々な政策を展開しております。その一つが温室効果ガス排出削減のための長期戦略の策定であり、現在、有識者の方々の御意見をいただきながら、環境と成長の好循環をもたらし、ビジネス主導の技術革新を促す、常識にとらわれない新たなビジョンを策定すべく、温室効果ガス排出削減に関する長期戦略策定に向けた作業を加速しているところです。

２０２０年のパリ協定の運用開始を控えた明年に我が国はＧ２０の議長国を務めます。本日の会議でいただく様々な示唆を踏まえつつ、議長国としてＧ２０の議論をリードし、再生可能エネルギーの拡大の重要性をＧ２０として再認識するとともに、気候変動対策に一丸となって取り組んで行く力強いメッセージを出せるよう、政府として尽力する考えです。

改めまして本日のご出席に感謝申し上げますとともに、再生可能エネルギーの 100%の社会の実現に向けて活発な議論が行われ、国際社会における気候変動対策推進並びに再生可能エネルギーの一層の導入に資する機運醸成への貢献につながることを祈念して、私の挨拶とさせていただきます。ご静聴ありがとうございました。